

課題別研修「農業政策(B)」

対象国： アゼルバイジャン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、
ウズベキスタン、ジョージア

受入人数： 8名

受入期間： 2019年2月11日～2019年2月23日



世界には農業が主要産業である国が多数ありますが、中には食の安全保障や経済発展、成長率において様々な問題を抱えている場合があります。

本研修は、中央又は主要地方政府において農業政策の立案又は国際協力業務に携わる行政官8名を対象に、日本の農業政策の歴史や現状について理解を深めることで、自国の農業分野における課題を明確にし、政策に活かすことを目的に実施しました。

研修では農業組織や農家視察、意見交換などを通して日本の農業の歴史や現状について理解を深めました。最終日には日本の経験を参考に指導普及員の育成や営農指導、6次産業化による地域振興の発展に向け、帰国後の具体的な活動計画を発表しました。



参加国と日本の農業分野における課題や現状を共有し、意見交換をしました。



自治体主体の「ワイン」を通じた地域振興や取組みを学び、製造現場を見学しました。



酪農家さんの取組み事例として、帯広市内の中村牧場さんを訪れました。



6次産業化の実例として、本別の前田農産食品さんを見学しました。